鑑賞文　俳句を楽しむ (1)

A　啄木鳥や落葉をいそぐ牧の木々　　水原秋櫻子

『葛飾』

この句の季語は上五の「啄木鳥」です。高い木の上で木をつつくこの鳥は、秋の季語になっています。この句では、「啄木鳥」という四音の季語の下に切字「や」がついて、ここで意味的に切れる構造になっています。イメージとしては、

啄木鳥や／落葉をいそぐ牧の木々

という感じで、中七・下五は啄木鳥とは別の情報です。「牧」とは牧場のことです。晩秋の牧場では辺りに啄木鳥の木をつつく音が響く中、木々がどんどんと葉を落としてゆく、そんな情景を詠んだ句です。

このように、「や」という切字はその名の通り、そこで意味的に切れることを表す切字なのです。短い俳句の中に、二つの情報を効率よく詠み込むために、「や」という切字は欠かすことができません。そして、この句のように二つの情報を詠み込んだ句のことを、俳句では「取り合わせ」と呼んでいます。上五に「や」を用いたこの句は、典型的な取り合わせの句だと言えます。

では、もう少し深くこの句を鑑賞してみましょう。この句は、どんなものとどんなものの取り合わせになっているでしょうか。

皆さんが啄木鳥の存在に気付くとすれば、おそらくは木をつつくドラミングの音で認識するのではないでしょうか。つまり、上五の「啄木鳥や」は聴覚的な情報と言えます。一方、中七・下五の落葉は目で見るもの、つまりは視覚的な情報です。この句は、聴覚と視覚を取り合わせることで、晩秋の牧場の風景をよりリアルに描いているのです。

（佐藤郁良『俳句を楽しむ』岩波書店　による）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) **A**の句で詠まれている季節を、「春・夏・秋・冬」のいずれかで答えなさい。

〔　　〕

(2) **A**の句に含(ふく)まれる切字を書きぬきなさい。また、句切れの種類を選び、記号で答えなさい。

ア 初句切れ　**イ** 二句切れ　**ウ** 中間切れ

切字〔　　〕　句切れ〔　　〕

(3) 「取り合わせ」とはどのような句のことか。本文中から十二字で書きぬきなさい。

(4) **A**の句はどのような内容の取り合わせになっているか。（　）に当てはまる言葉を本文中からそれぞれ探し、最初の三字を答えなさい。

（①十字）が牧場に響くという聴覚的な情報と、

（②十六字）光景という視覚的な情報。

①

②